

VI. 広報活動

霊長類研究所では広報委員会が担当して、公開講座、研究所公開、オープンキャンパス（大学院ガイダンス）などを開催し、研究所の活動を所外の方々に紹介している。また、リーフレット、ホームページなどでも紹介・広報活動をおこなっている。

1. 公開講座

犬山公開講座「サルを知る」

2010年7月31日(土)～8月1日(日), 京都大学霊長類研究所にて開講した。参加者は60名。

<プログラム>

7月31日(土)

司会: 辻大和

開会の挨拶: 松沢哲郎

講義: 平崎鋭矢「サルの歩行からヒトの直立二足歩行の起源と進化を探る」

講義: 平井啓久「遺伝子以外のゲノムがもたらす生物の進化」

実習:

形態学「骨学・化石実習」(国松豊)

遺伝学「ゲノム実習」(今井啓雄)

生態学「サル観察実習」(辻大和)

心理学「チンパンジー見学」(友永雅己)

8月1日(日)

講義: 古市剛史「人類進化再考: ヒトはいつ、なぜ立ち上がったのか」

講義: 松井智子「ヒトは人助けが得意な動物」

実習: 前日と同じ

東京公開講座「サル・ヒト・人」

2010年9月25日(土), 日本科学未来館7階みらいCANホールにて実施した。参加者は186名。

<プログラム>

司会: 大石高生

所長挨拶: 松沢哲郎

講義: 脇田真清「サルにことばがわかるか」

講義: 古市剛史「類人猿ボノボ: メスたちの平和力」

講義: 郷 康広「ゲノムを通して我が身を知る」

講義: 川本 芳「ブータンのサルと人」

質疑応答

2. 第20回市民公開日

2010年10月31日(日) 13:00から15:30まで市民公開がおこなわれた。内容は、古市剛史による講演「ボノボ: メスたちの平和力」と放飼場・展示資料室の見学だった。参加者は42名。

(文責: 辻大和)

3. オープンキャンパス・大学院ガイダンス

大学の学部生をおもな対象とし、大学院ガイダンスを兼ねた2010年度のオープンキャンパスを、2011年2月21日、22日に開催した。各分科の教員による講義、所内見学、各分科教員との懇談会、さらに大学院生・研究員等も参加した懇親会がおこなわれた。参加者は24名だった。

<プログラム>

2月21日(月)

開会の挨拶: 松沢哲郎

各分科の紹介1

認知学習分科

系統発生分科

社会生態(生態保全)

社会生態(社会進化)

ゲノム多様性分科

入学試験説明

各分科の紹介2

実験動物科学分科

思考言語文化

高次脳機能分科

統合脳システム分科

ポストゲノム科学分科

進化形態分科

懇親会(夕食を兼ねた立食形式の懇親会で、教員や大学院生とのコミュニケーションを図った)

2月22日(火)

所内見学

各分科の教員との懇談会1

各分科の教員との懇談会2

(文責: 辻大和)

VII 自己点検評価委員会報告

毎年作成している霊長類研究所年報の平成22年度版として、第40巻(2010)を作成した。これを冊子の頒布とホームページへの掲載の形で公開した。また、「中期計画・年度計画の進捗状況調査」等、京都大学本部からの各種調査依頼が計5件あり、所内外での聞き取り・記録閲覧・文献検索等を行い、報告書を作成して提出した。

自己点検・評価委員会: 古賀章彦(委員長), 今井啓雄, 友永雅己, 渡邊邦夫

(文責: 古賀章彦)